

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

熊本県における肝疾患コーディネーターの活動向上に向けた実態調査と支援

研究分担者 田中靖人 熊本大学生命科学研究部消化器内科 教授

**研究要旨**

【背景】熊本県では2015年より肝疾患コーディネーター（以下肝Co）を養成しており、その数は年々増加している。これまで2018年、2019年に肝Coを対象としたアンケート調査を実施し、活動の現状と問題点を抽出してきたが、コロナ禍において活動内容に変化が生じていることが予想される。今回再度肝Coを対象として、活動状況等をアンケート調査した。

【方法】熊本県内の肝Co 386人を対象に、活動内容、活動できていない場合はその理由、必要な支援などについてのアンケート調査を行った。

【結果】68.9%の肝Coが活動できていた。一方、活動ができない理由としては、コロナ禍の影響もあり活動の場がない、時間がない、何をしたらよいかわからないという回答が多く、具体的な活動の場や事例の情報提供が望まれていたため、啓発活動や研修などのイベントを開催した。しかし、熊本市内での開催であったため、地方の肝Coの参加が困難であった。

【結語】今後は、地域でのイベント開催も必要であり、自発的活動がその後も継続して行われるために、地域の肝Coが計画立案から主体的に参加することが重要であると考えます。

**A. 研究目的**

熊本県では、2015年より肝炎のみならず肝疾患全般に対する調整者としての活動を目的として、肝疾患コーディネーター（以下肝Co）という名称で育成を開始し、その数は、2018年 396人、2019年 463人と増加している（3年更新制）。

これまで、肝Coに対して、2018年、2019年に活動内容、活動できていない場合はその理由、必要な支援などについてのアンケート調査を行い、抽出された問題点の改善に努め、必要とされる支援を継続してきた。

しかし、コロナ禍において活動状況に変化が生じていることが予想され、今回改めて、肝Coを対象に活動状況等についてアンケート調査を行い、実態を確認するとともに

に活動支援を行った。

**B. 研究方法**

熊本県内の肝Co 386人を対象に、2021年6～7月にアンケート調査（添付資料①）を行った。アンケートは、各肝Co宛に郵送し、記載後に返信することで回収した。

**C. 研究結果**

90人（23.3%）から回答を得た。68.9%（職場内外：11.1%、職場内：56.7%、職場外：1.1%）が肝Coとしての活動ができていた。その内容としては、パンフレット等の掲示・配布（45.6%）やコーディネーターバッジの着用（34.4%）、肝炎医療コーディネーター活動応援団（LINE）への参加（34.4%）などが多かった。また、個別に院内で肝炎ウイルス検

査陽性者をリストアップし、オーダー医へ還元している肝 Co や、肝炎対策チーム設置を検討している肝 Co、腹部超音波検査にて脂肪肝を認めた方への病態説明を行ったり、肥満や糖尿病患者への栄養指導時に脂肪肝のスクリーニングを勧めている肝 Co などがあった。2019年のアンケート調査（回答率は32.2%（124/385））では、70.1%（職場内外：18.5%、職場内：47.6%、職場外：4.0%）が肝 Co としての活動ができていると回答していたが、その割合に有意な低下は認めなかった。

一方で、活動できていない理由としては、職場内外では、時間がない、何をしたらよいかわからない、職場外ではコロナ禍の影響で活動の場がないという回答が多く、具体的な活動の場や事例の情報提供が望まれていた。

そこで、2016年から毎年肝臓週間にあわせて実施している肝疾患ならびに肝炎ウイルス検査受検勧奨の街頭キャンペーン（2020年はコロナ禍で中止）を、2021年7月18日に熊本市内商業施設内にて行った。当県のPRマスコットキャラクターであるくまモンとともに、肝臓病教室（肝臓病の話、肝炎体操）を行ったり、血圧・体組成・血管年齢測定、肝臓病のパネル展示、専門医による無料相談、肝炎ウイルス検査・脂肪肝啓発のうちわ配布などを行った。熊本大学病院肝疾患センターでは、2020年12月に、肝硬変・肝がんの成因として増加傾向にある脂肪肝への対策として、「脂肪肝早期発見・治療サポートプロジェクト in Kumamoto（熊本脂肪肝プロジェクト）」を始動し、FIB-4 index を簡単に計算できるWEBサイトを作成し、脂肪肝の方が速やかかつ簡便に肝疾患専門医療機関を受診でき、必要に応じて治療を受けることができる体制を確立しているが、前述のうちわには、脂肪肝の説明とともに

FIB-4 index 計算サイトの案内も添付した（添付資料②）。

また、同施設では、11月6日にも簡易検査キットを用いた肝炎ウイルス検査の実施などにて肝炎啓発活動を行い、合計約30人の肝 Co の参加があった。同様の啓発活動については、2022年3月21日にも開催を予定している。

さらに、2021年9月19日に実施した肝 Co 養成講座・研修会（新規養成者：112人、継続受講者：60人）では、講義による肝疾患全般に関する知識習得とともに、パネルディスカッションにて各職種毎の活動事例の提示などが行われた。また、10月24日に実施した肝 Co フォローアップ研修会では、「肝 Co としての役割を考える」をテーマにグループワークを行い、これまで肝 Co としてできた活動、できなかった活動とそれぞれの理由をディスカッションし、アクションプランの作成を行った。アクションプランは研修会後にLINEグループを作成、共有し、実践報告を行った。その1例として肝 Co が居住校区の回覧板に肝炎や脂肪肝を啓発するパンフレット等の掲示の依頼をし、390部の資料配布が実施された。肝 Co が自治会長への趣旨説明、掲示依頼文の作成などを行い、当肝疾患センターは、依頼文の承認と掲示資料の提供にて支援を行った。なお、今回の肝 Co フォローアップ研修会は、今後2次医療圏ごとの活動の活性化を目的に、2次医療圏ごとにグループワークの開催を検討しているが、その際のファシリテーターとなる人材の育成も兼ねて行った。

これらのイベントや研修会の情報は、肝炎医療コーディネーター活動応援団（LINE）を活用し案内を行った。

また、啓発活動の一環として、以下のメディアにて広報活動を行った。

2021年  
4月1日

テレビ熊本「タウン TOWN」出演  
熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト

7月3日

くまにちあれんじ

「今どうなっている？肝炎・肝がん」

7月22日

週刊文春「肝疾患の診断と治療で頼れる病院・クリニック」

10月から1年間

モニター広告(熊本市役所などで)熊本肝炎・脂肪肝プロジェクトについて

11月

2022年度最新版「新時代のヒットの予感!!」に選出 熊本脂肪肝プロジェクト

12月30日

朝日新聞 熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト

2022年

1月1日

読売新聞 熊本脂肪肝プロジェクト

#### D. 考察

2019年のアンケート調査と比較し、肝 Co としての活動ができていると回答した割合に低下は認めなかった。しかし、回答率に大幅な低下を認めた。その理由のひとつに、活動ができているがゆえに未回答とされていることが推測され、実際の活動率はより低い可能性が考えられる。今回、アンケート調査で求められていた活動の場の提供として様々な啓発活動を、事例の情報提供としてパネルディスカッションやグループワークなどを行った。これにより活動機会の増加は図れたが、企画を当肝疾患センターが主体となって行ったこともあり、熊本市内での開催となったため、遠方の肝 Co の参加が困難であった。地域でのイベント開催の機会はアンケート調査でも求められており、今後は地域での実施も必要であり、実施に

際しては、自発的活動がその後も継続して行われるために、地域の肝 Co が計画立案から主体的に参加することが重要であると考えられる。

一方、肝 Co の活動内容には、肝炎のみならず、脂肪肝を対象とした疾患啓発も含まれていた。職種にもよるが脂肪肝患者あるいはその可能性のある生活習慣病や肥満を有している方との接触の機会は多く、今後も脂肪肝を含めた肝疾患の啓発、指導が広く展開されることが期待される。

#### E. 結論

肝疾患全般に対するケアに肝 Co が積極的に参加できるための支援を継続する。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

瀬戸山博子、立山雅邦、田中靖人 WS16-15 : 熊本県における肝がんハイリスク患者地域、職域、院内での拾い上げ 第 107 回日本消化器病学会総会抄録集 A213

野村真希、川崎剛、田中靖人 SP2-2-11 : 当県における肝疾患コーディネーターの取組 第 57 回日本肝臓学会総会講演要旨 A243

#### G. 知的所有権の取得状況

なし

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし